

学術団体名：一般社団法人 日本菌学会  
学術刊行物の名称：Mycoscience  
事業期間：平成28年度～平成32年度

## 1 取組の概要

### ・取組内容の特徴と目的、意義及び方法

Mycoscienceは菌類系統分類学を中心に菌学全般を網羅し、アジアを代表する学術雑誌と認識され、海外の責任著者比率は66.7%(2014年12月)である。この地位の維持と更なる飛躍を目指す取り組みを行う。年間300報以上の投稿があるが、その多くが内容や不備のため査読前に却下される。そこで、編集体制と編集事務局の強化を図り、さらに増加が予想される投稿論文を迅速・安定に審査・出版する体制を構築する。取り組みとして英文チラシの作成、編集体制の強化、国際シンポジウムを計画してそこで発表された研究を論文化し、特別号として発信する。さらに、招待総説、多く引用されそうな論文など一部の論文のオープンアクセス化する。アジアの有力雑誌としての責任を果たすため、新種、新記載種掲載を継続しつつ、論文数増加によるIF低下を防ぐため、HP上での公開、日菌報英語版など別の方法として公開し、国際情報発信力のさらなる強化を図る。

### ・応募時に設定した取組の目標・評価指標

#### 【達成目標】

1. 投稿論文数の増加に対応し、編集事務局の増員、Senior Editor 制を導入することにより、迅速かつ効率的な審査を行う編集体制にする。
2. 特別号の隔年発行を目指し、国際シンポジウム開催する。
3. 特別号、招待総説、多く引用されそうな論文など一部の論文のオープンアクセス化を実施する。
4. アジアにおける新種、新記載種の報告を公開、アジアの代表とする学術雑誌の役割を果たす。
5. 上記の取組により論文ダウンロード数の増加を図る。（現状 4.6 万→5 年後 6 万件）

## 2 目標の達成状況

### ・現在までの目標の達成状況

1. 編集体制の強化: Senior Editor5 名を配置し体制を強化、海外からの投稿原稿は 74%、平均 25 週だった出版までのプロセスは 17.2 週まで改善した。
2. 他の海外学会との連携と特別号発行: 第 10 回極地と高山帯の菌学国際シンポジウム特集号を 2018 年 7 月に発行。2017 年は日台合同シンポジウム(台北市)、アジア菌学会(ベトナム、ホーチミン)にてシンポジウム、2018 年は日韓合同シンポジウムを開催した。特筆すべき点としては、Mycoscience 誌国際化のキーとなるアジア菌学会 2019(2019 年 10 月)の日本への誘致に成功した。
- 3.一部の論文のオープンアクセス化: 菌学会賞受賞者による総説(Review)をオープンアクセス化し、年間でトップのダウンロード数を記録した。
4. アジアの新種、新記載種の報告: 英文要約付きの日本菌学会報を J-Stage で公開、引用数を上げるため Mycoscience の PDF をデータベース会社に配布等の努力を行い、アジアを代表する学術雑誌の役割を果たす。IF 値は 1.229(2017)と 申請時 1.165 (2015)より向上し、外国人会員数も 1.8 倍に達した。
5. 論文ダウンロード数の増加: 申請時の約 46,000 件を、3 年後に 55,000 件としたが、事業 2 年目の 2017 年末には 57,000 件に達した。

### ・今後の計画

編集体制の更なるブラッシュアップを継続し、より効率的な運用を目指す。また、強固な連携となり、アジアでの地位を高めるために重要な国際シンポジウムや、誘致に成功したアジア菌学会2019を活用し、Mycoscience誌の更なる国際化と、国際的な地位の向上に努める